

ふるさと
ラグビー
雑史

大北惇彦
編



ふるさと
ラグビー
雑史

目次

栄光の松阪商業学校	4
松阪商業学校ラグビー部について	6
全国中等学校11回東海決勝	8
全国中等ラグビー東海決勝（名鉄G大曾根）	9
全国中等ラグビー18回大会東海決勝（高農G）	10
全国中等ラグビー東海決勝	11
全国大会東海京滋代表決勝戦	14
全国中等ラグビー24回大会	17
津中学校について	20
戦後の中等ラグビー	24
津工業のスタート	27

野口先生の指導で	28
昭和21年全国大会三重予選	29
新制高校と旧制度について	30
津高等学校のラグビー部の創設	35
野口先生遺稿	37
三重県立医学専門学校	41
戦後復興時の社会人チーム	43
久居自衛隊チームについて	46
塩崎光藏様	47
事故	47
ブラックボックス	47
新聞史料	49
終わりに	56

三重県の「ラグビーフットボール」は、昭和3（1929）年4月に三重県高等農林学校（現・三重大学生物資源学部）で、平井宏氏が楯円球を持ち込んだ事から始まった。

「三翠ラグビー五〇年のあゆみ」（昭和52年記念誌）に、平井氏は天王寺中学（現・天王寺高校）の出身とある。

余談になるが、高農のグラウンドにあるゴールポストは「日本一」で、一見に値するものだった。軽合金になるまで当時は木材なので、演習林から選んでくるようなことができたから…。

栄光の松阪商業学校

中等ラグビーについて（現・全国高校ラグビー大会）

大正の初め、京都・大阪地区の学校にラグビーが普及。大正7（1918）年1月、

豊中運動場で催された第1回目大会の参加校は4校。全同志社、三高（現・京大）、全慶応、京都一商だ。

第2回 大正8年1月 慶応、同志社大、同志社普通部、京都大、三高、京都一商

第3回 大正9年1月 この時、大学と中学と分けたとのこと

同志社中学、京都一商、慶応普通部 参加

第9回 大正15年 この年度から全国4ブロック予選大会が始まった

第23回 昭和16年1月 京都勢を抑えて、「松阪商業学校」が本大会出場という快挙！

子ども心に何かワクワクした。その後、昭和17年、18年と連続出場。

第28回大会から、学生改革で中等学校大会から高校大会に変わる。

松阪商業学校ラグビー部について

ラグビーのスタートは、第5回卒業生（昭和4年）の久保義生（三重高農ラグビー部4代目主将）が、三重高等農林学校でラ式蹴球に魅せられ、昭和6年夏、母校に「ア式蹴球より面白い」と話した事から始まった。松阪商業学校は今の幸小学校と松阪工業グラウンドを併せた所で、かなりの面積。今は死語になっているが「商業通り」に変わって「幸通り」と言う人もいる。

ア式蹴球↓アメリカンフットボールではない。アツソシエーションフットボールだ。
ラ式蹴球↓ラグビーフットボール

昭和初期は「サッカー」の語は使用しなかった。

●発足当時のメンバー

- ①花谷 常之助
- ②田上 孝雄
- ③寺田 勇次郎
- ④大野 奈良松
- ⑤多賀 一夫
- ⑥中井戸 芳久
- ⑦森 誠治
- ⑧金児 實
- ⑨西澤 楠虎
- ⑩藤田 孝一郎
- ⑪高奥 好一
- ⑫須藤 幸太郎
- ⑬金澤 政雄
- ⑭奥野 好一
- ⑮谷口 正

主将 藤田 孝一郎
副将 金児 實

昭和7年4月9日 0 | 33 三重高農

4月27日 3 | 48

5月14日 3 | 35

10月23日 0 | 32

11月3日 5 | 15

〃

〃

全国中等ラグビー 東海決勝（於名古屋高商G）

11月16日

8 | 12

東邦商業

昭和8年 主将・金澤 副将・安西 副将・西村金七

5月13日 0―54 三重高農

9月10日 0―17 大同製鋼(高農G)

10月22日 33―14 名鉄局(松商G)

11月5日 3―48 三重高農(三重高G)

全国中等学校11回東海決勝

昭和8年11月12日 17―0 東邦商業(鶴舞公園G)

やっと東邦商業に勝った。

対京滋戦資料ナシ

対外試合は殆どなく、県下に三重高農1チームだけなので、練習試合は高農のみ。大人と子どもの相撲のようなものと聞いている。

12月3日 5—49 名古屋高商(名商高G)

昭和9年 主将 安田利雄 副将 潤田宏

9月9日 0—40 名古屋高商(高農G)

9月16日 0—30 大同製鋼(大同G)

9月24日 0—38 東邦商業(松商G)

9月30日 6—50 三重高農

10月28日 0—39 名鉄局

全国中等ラグビー東海決勝(名鉄G大曾根)

11月18日 6(3—10) 3(11) 21 東邦商業

FW	佐藤 坂本 松田 山本 神守 伊藤 安田 岡島
HB	脇田 増井 東谷 前田 垣内 葛西
TB	
FB	潤田

昭和10年 主将 前田保

9月15日 3―6 東邦商業 (名高商G)

9月29日 0―62 三重高農

10月 3―18 中部電力 ※東邦電力が中部配電か定かではない (岐阜高農G)

昭和10年 全国中等ラグビー18回大会 東海決勝 (高農G)

10月20日 5―3 (東邦商業)

その頃、ボールは美津農 (ミズノ) 製「タツクル」1個8円なり。当時米俵1俵 (60キログラム) 11円ぐらい。

昭和11年 主将 垣内忠五郎

2月に津中学がチーム発足

5月3日 練習マッチ

9月6日 5―87 名鉄局(名高商G)

9月20日 3―12 東邦商業(松商G)

全国中等ラグビー―東海決勝

11月15日 5―15 東邦商業(名医大G)

昭和12年 主将 高橋英雄

9月27日 19―3 津中練習マッチ(津中G)

10月10日 9―22 名鉄局(高農G)

日時不明 19(11―0 8―3) 3 津中

FW	東条 守山 西沢 古池 黒田 神部 山本 浦口
HB	高橋 野呂
TB	池上 金児 山本 松尾
FB	青木

全国中等ラグビー東海決勝

11月21日 5―8 東邦商業（三重高農G）

戦前の昭和13年に、山中、山商、が1シーズンラグビーがありました。

昭和13年 主将・神部茂

東海決勝

11月20日 5―14 東邦商業（鶴舞公園G）

昭和14年 主将・金児 隆

全国中等ラグビー東海決勝

7月27日 42 | 0 津中 (津中G)
 10月7日 9 (6 | 5) 3 | 21) 26 名鉄局 (松商G)

11月12日 17 (3 | 3) 14 | 8) 11 東邦商業 (名医大G)

京滋決勝

日付不明 松商 0 | 42 同志社中

FW	山下 西山 小川 田中 杉本 藪内 笹井 市瀬
HB	毛利 青木
TB	田村 金児 高杉 園部
FB	谷本

昭和15年 主将・青木三郎

9月8日 26 (5 | 6) 21 | 3) 9 名鉄局 (松商G)

東海大会

11月10日 35 (9 | 0) 0 東邦商業 (鶴舞公園G)

11月18日 24 (8 | 0) 12 | 0) 0 津中学 (高農G)

FW	西田	鈴木	葛西	谷本	樋口	市瀬	朝倉	笠井	毛利	青木	平田	田村	北出	園部	小林
	HB														
	TB														

全国大会東海京滋代表決勝戦

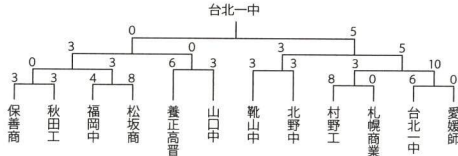
12月1日 5 (0 | 0) 5 | 3) 3 京都一商 (八事名帝大G)

中学ラグビー本大会 (南甲子園)

昭和16年1月2日 8 (5 | 3) 3 | 11) 14 福岡中

第23回大会 昭和16年1月2日～7日 南甲子園運動場

第23回大会において誠に悲しいアクシデントが惹起した。即ち本大会二回戦福岡中―保善商の試合が終つて直後、福岡の石本選手が昏倒、ついに死去したことである。死因は頭部打撲による内出血と診断されたが、今回の如く全試合を健闘した後倒れた例はなく、遂に死に至るまで意識回復しなかつた為、果たして試合中何時負傷したのか判明しない。協会はかかる不祥事の再び起こることなきよう細心の留意を払う決意を表明した。



一回戦 1月2日 南甲子園運動場

第1試合 村野工 8 $\begin{pmatrix} 3-0 \\ 5-0 \end{pmatrix}$ 0 札幌商業 (主審 白崎
線審 長井 近藤)

(評)札幌は個々に優れた体格を利用して村野を圧したが、村野はルーズに洗練さを示し、ボックスの長蹴とトリプルで先行して前半を終わった。両チーム実力に殆ど差が見られず、先行した気分が優位がその儘スコアになつたと云える。

第2試合 保善商 3 $\begin{pmatrix} 3-0 \\ 0-3 \end{pmatrix}$ 3 秋田工 (主審 阿部
線審 野田 浜田)

(評)大会随一の好試合が予想されただけに両軍共中等離れた体格とガッチリしたスクラムで対峙した。保善はFWに僅かに優位に立ち、度々ボールをボックスに送つたが、徒らにアラインドをつき過ぎ、又キックの乱用で好機を掴めなかつた。秋田はボックスの見事なパスとFWの好フォーローで屢々好機をたらえ、凄壮な肉弾戦を展開したが遂に引合に終わり、保善は抽選を拾つた。

第3試合 台北一中 6 $\begin{pmatrix} 0-0 \\ 6-0 \end{pmatrix}$ 0 愛媛師 (主審 細田
線審 甲斐 堀川)

(評)初陣愛媛師のFWは開始直後はよく体力に勝る台北を押し屢々相手ボールをも奪つて期待されたが次第に未熟さを暴露し折角走力あるバックを活かし得ず、徒らに反則を重ねて敗れ去つた。

第4試合 福岡中 14 $\begin{pmatrix} 3-5 \\ 11-3 \end{pmatrix}$ 8 松坂商 (主審 木下
線審 内藤 藤谷)

(評)本大会九回出場の福岡に対し初出場の松坂はFWの健斗草々しく5-3と前半をリードしたが、後半福岡のボックス良く奪い遂に敗れた。両軍伯仲の実力と見えたが僅かに福岡のバックの走力が優れておりこれが勝敗の分岐点となつた。

二回戦 1月3日 南甲子園運動場

第1試合 養正高晋 6 $\begin{pmatrix} 0-3 \\ 0-0 \end{pmatrix}$ 3 山口中 (主審 北野
線審 近藤 内藤)

養正高晋	正木	香林	神農	木村	松木	伊原	宮本	豊田	西原	大村	岩村	宮本	松本	金子	林
	FW								HB		TB			FB	
山口中	本間	安富	藤園	藤井	藤井	藤野	藤野	国重	梶山	白上	佐々木	伊藤	田中	中村	山下

(評)初出場の山口中が強豪養正に対し堂々の闘いぶりは賞賛に値する。流石に養正は1日の長あつて大村のPG、岩村のトライと先取したが、山口中も24分の国重のトライで追つた。前半も猛烈な当たりの連続で誠に気持ち良く、特に初陣山口中の奮斗は驚異であつた。

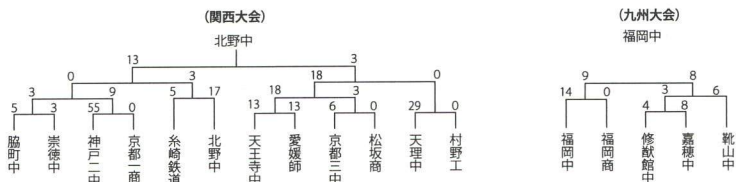
第2試合 靱山中 3 $\begin{pmatrix} 3-0 \\ 0-3 \end{pmatrix}$ 3 北野中 (主審 細田
線審 熊谷 木村)

靱山中	吉田	岡田	久保	酒見	太田	松浦	井口	緒方	島岡	梅村	米倉	南水	満津	船津	吉村
	FW								HB		TB			FB	
北野中	杉野	石外	早野	佐藤	藤野	劉井	劉井	橋本	林田	藤田	川本	山根	谷山	片山	小松

(評)靱山は先蹴と共に北野陣に攻め入り、5分船津の独走で幸先良いスタートを切つたが北野FWは鋭い突込みと見事な押しで再三靱山を圧迫、ゴール前に殺到したが、靱山の好タックルに阻まれた。

第24回大会 昭和17年1月2日～7日 南甲子園運動場 福岡春日原球場

第24回大会は関西、九州地区に分かれて開催された。



関西大会 一回戦 1月2日

第1試合 天王寺中 13 $\left(\begin{smallmatrix} 0 & -13 \\ 13 & -0 \end{smallmatrix}\right)$ 0 愛媛師 (主審 細田 線審 木村近藤)

(評) 烈風下に降した天王寺の不利は3分不覚の得点を許し、愛媛は勢に乗じ、トライ、1ゴールを重ね13-0で前半を終わる。後半に入るや形勢は俄然逆転し、風を背にした天王寺は長蹴をもって愛媛をゴール前に押し20分にして得点を挽回し尚勝越しの好機を掴んだが惜しくも逸した。しかし抽選の結果勝を許した。

第2試合 脇町中 5 $\left(\begin{smallmatrix} 0 & -3 \\ 5 & -0 \end{smallmatrix}\right)$ 3 崇徳中 (主審 佐藤 線審 長井山脇)

(評) 地方における拮抗を甲子園に移しての肉弾戦であったが共に決定力に欠け僅かに崇徳のPGで優位に保ったに対し脇町は後半よく攻めて1ゴールをかえし勝者となった。

第3試合 京都三中 6 $\left(\begin{smallmatrix} 3 & -0 \\ 3 & -0 \end{smallmatrix}\right)$ 0 松坂商 (主審 白崎 線審 石田村松)

(評) 京都FWは体力を利用してタイトを押しまくり前半よくスクラム・トライを物したが松坂は小幡ながら果敢なタックルとルーズの突っ込みで対抗した。後半風下ながら京都はダブルで松坂陣に攻め入り右隅にトライを挙げて勝った。

第4試合 神戸二中 55 $\left(\begin{smallmatrix} 27 & -0 \\ 3 & -0 \end{smallmatrix}\right)$ 0 京都一商 (主審 木下 線審 和田浜田)

(評) 神戸はFWプレーにTBの走力に完全に京都を圧倒し去った。京都大敗の最大の因は不確実な防戦にあり大敗もやむを得ない。技に劣るとき相手に対抗する途は果敢なタックルにあることを銘記すべきである。

二回戦 1月3日

第1試合 天理中 29 $\left(\begin{smallmatrix} 11 & -0 \\ 18 & -0 \end{smallmatrix}\right)$ 3 村野工 (主審 西 山崎今西 線審 山崎今西)

天理中	馬場	中野	寺島	松島	高尾	尾崎	奥山	岡山	熊地	徳村	松川	田中
	阪	田	島	島	井	橋	田	山	沢	地	村	合
	FW						HB		TB			FB
村野工	西山	逸見	辰谷	小西	橋本	永田	三好	丹羽	前河	加藤	佐藤	浜木
	田	口	見	谷	西	本	好	羽	河	藤	木	山

(評) 前日にかわる晴天できびきびしたプレーが展開された。FWに優勢な天理はSO岡山の巧妙な動きに村野のTB線を完膚なきまでに寸断し着々と得点を重ねて快勝した。村野はタックル不正確な為実力差以上の得点を献上した。

第2試合 北野中 17 $\left(\begin{smallmatrix} 11 & -5 \\ 6 & -0 \end{smallmatrix}\right)$ 5 糸崎鉄道 (主審 熊谷 線審 寺岡木村)

北野中	小竹	名井	井上	小倉	福田	中井	劉井	小松	片山	石川	山中	渡村	奥田
	FW						HB		TB			FB	
糸崎鉄道	植野	源城	中村	向川	浜田	金城	藤井	佐藤	山本	大賀	久吉	英井	砂田

(評) 糸崎はその重量と突進力で1ゴールを先取して期待されたが、流石に北野はよく立ち直り特にFWは固いバックに伴うように押しで大半の球をとりTB又巧味のあるプレーに得点を重ね快勝した。

この大会優勝は台北一中

昭和16年 主将 毛利忠司

全国中等ラグビー24回大会

11月23日 20―5 東邦商業（名古屋大G）

この年は関西大会 九州大会 2ブロックの大会

昭和17年 1月2日 0―6 京都三中（京都三中は現在の山城高校）

昭和17年 主将 橋本孝一郎

9月24日 敗戦 東邦商業（大同鋼G）

第25回全国大会には予選に勝ち出場

予選の記録資料が手元にナシ。東海代表になっている。

太平洋戦時下であり、満州、朝鮮、台湾が欠けて9地区代表だった。

昭和18年 1月2日 3（0―6 3―0）0 協町中学

1月4日 0 (0-12) 0 (0-26) 38 神戸二中 (神戸二中は今の兵庫高校)

1月2日 まさか脇町中学に勝てるとは思っていなかった。勝ったのは嬉しいが、宿賃がなく、正月のことで金融機関はストップ。冷汗で引率の先生は大変だったと、スクラムハーフの安西昭様が話してくれた。「安西、お前小遣いいくら持っているか、全部貸してくれ!」にはビックリしたと。(元松阪鉄工の役員故人)

昭和18年 闘球部 主将 安西 昭

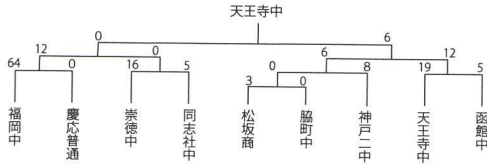
3月からラグビーフットボール↓闘球

18年 1年生新入部員にして最後の部員 笠井晴夫 片山貞郎 (2名ともガキの頃からの友人)

昭和18年春から海軍予科練習生、陸争軍特別幹部候補生に志願して、学校を後にする

第25回大会 昭和18年1月2日～7日 南甲子園運動場

暫く全国高専大会と同一主催のもとに行われていた本大会も今年から分離し本大会は文部省学徒振興会主催となり、折から太平洋戦争の戦局暫く重大の徴候を示し、人心暫く不安に、物資次第に欠乏を来して殊に朝鮮、台湾、満州は戦局急転のきざしに参加すべくもなく加えて東北又不参加とあって一抹の淋しさを禁じ得ない。



当時のプログラム(本大会天王寺中SO、現大阪クラブ所属)に掲げられている「大会趣旨」並「空襲警報時に於ける処置」を見ればいかに緊迫した情勢下にあったかがうかがわれる。

大会趣旨抄

米英撃滅の大詔渙発せられ皇軍の赫々たる武軍は四海を圧して大東亜建設の大業はその巨歩を速しく踏み出して茲に一周年を迎う。皇軍の前途は洋々としているが、戦は將にこれからである(中略)青年学徒たるもの文を修め武を錬るはその本分とするもの、時に同志一場に会して平素修練の成果を発揮し、愈々切磋琢磨するは大なる意義を痛感する。即ち文部省は大日本学徒振興会を組織し学校報国団学校報告隊と相結んで各種学校体育訓練に当たるものであるが本年度よりその事業の一つとして中等学校運動競技武道試合を統一し肇國の聖地樞原を中心に…(略)

空襲警報時に於ける処置

- ①警戒警報及び空襲警報下令せられた際の処置に就いては総て大会本部指揮により行動すべきものとする。
- ②試合がハーフタイム後ならば其時の得点を以て勝敗を定む。
- ③ハーフタイム前及び同点ならば大会委員等に於いて再開、其他適当に協議す。
- ④ハーフタイム前に於いては技備及び得点に格段の差異あるときは大会委員にかくして戦時中最後の大会は開始された。

一回戦 松坂商 $3\left(\begin{smallmatrix} 0 & - & 0 \\ 3 & - & 0 \end{smallmatrix}\right) 0$ 脇町中

二回戦 1月3日

第1試合 天王寺中 $19\left(\begin{smallmatrix} 13 & - & 0 \\ 6 & - & 5 \end{smallmatrix}\right) 5$ 函館中

(評)古豪天王寺は過ぐる神宮大会に優勝し自身をもって悠々と勝った。技術的に数段劣る函館は後半大いに健斗互角の試合を展開し賞賛をあびた。

第2試合 崇徳中 $16\left(\begin{smallmatrix} 13 & - & 0 \\ 3 & - & 5 \end{smallmatrix}\right) 5$ 同志社中

(評)崇徳中はフォワード、バック共によくまとまり見事なコンビを見せたが、同志社は秀れた体格にもかかわらずあまりを欠き個々の単独プレーに終わり、後半の健斗も空しく破れた。

第3試合 福岡中 $64\left(\begin{smallmatrix} 20 & - & 0 \\ 44 & - & 0 \end{smallmatrix}\right) 0$ 慶応普通

第4試合 神戸二中 $38\left(\begin{smallmatrix} 12 & - & 0 \\ 26 & - & 0 \end{smallmatrix}\right) 0$ 松坂商

(評)巨漢を揃えた松坂も技術的な未熟は覆い難く神戸の小粒ながらシャープな動きと巧妙なプレーに眩惑されて大敗した。

準優勝 1月5日

第1試合 福岡中 $12\left(\begin{smallmatrix} 3 & - & 0 \\ 9 & - & 0 \end{smallmatrix}\right) 0$ 崇徳中

福岡中	瀬戸	南川	広武井	大橋	清原	高松	林	船越	斎藤	国武	吉原	久羽	加藤	永江	
	FW						HB		TB			FB			
崇徳中	福岡	房尾	峠	田中	柴田	中川	胡立	立井	鳥越	佐々木	奏	芝	新田	智谷	片山

生徒が続出。商業学校の存在が問われ、学校に志願兵の応募ノルマの様なものがあった。

昭和19年文部省令で、商業学校閉鎖になり、県下で四日市商業、宇治山田商業だけが残り、松商の新2年生を松阪工業学校と津工業に配分して、産業教育する。(励精商業も然り)

県下の中等学校3年生以上軍需工場へ学徒動員で勤労活動で臨戦状態になった。

津中学校について(後に野口章先生の遺稿 莊司稔様の記あり)

ラグビー創設昭和11年2月。

私が創立メンバー栢原伝様から聞いたのは

昭和11年 仲村先生と藤原先生から「ラ式蹴球」を知らされて、面白いからやろうと、

ボート部、柔道部、野球部あたりからメンバーを集めて、陸上競技部の「吉江君」にキャプテンを願って始めた

との事。栢原氏は柔道部だった。そして松阪商業のラグビー金児兄弟の従兄で後、立教大―学徒出陣（水戸の航空隊入隊500人中唯一生き残った元津市議・故）。

昭和11年5月3日 練習マッチ（津中G）

津中 11―13 松阪商業

名古屋高等商業校主催 中学大会

12月6日 0―37 東邦商業（名高商G）

昭和12年

9月27日 3―19 松阪商業（津中G）

10月14日 0―56 東邦商業（名医大G）

昭和13年

11月13日 0 | 30 東邦商業 (三重高農G)

12月11日 17 | 0 浜松二中 (名高商G)

12月11日 3 | 69 東邦商業 (名高商G)

昭和14年

7月27日 0 | 42 松阪商業 (津中G)

FW	青山	
	森谷	
	奥坂	
	加藤	
	佐藤	
	木平	
	笠井	
HB	伊藤	雅
	古市	
	田畑	
TB	戸木田	
	中村	
	野田	
	岡本	
	伊藤	

昭和15年

11月18日 於 三重高農G 0 (0 | 28 0 | 12) 20 松阪商業

FW	山田 野村 須田 若林 小川 森 福永
HB	中谷 岩間 伊藤 藤
TB	斉藤 谷口 古市 本
FB	富田

昭和16年 17年 全国大会の予定の資料ナシ

昭和18年9月11日 3-66 三重高農

特筆すべきは、海軍兵学校、海軍機関学校では闘球の名でラグビーが訓練の一部に行われていて、海軍三重航空隊（俗に香良洲の予科練）にも採用されていた。

昭和18年2月13日 三重高農と練習マッチを行っていて

三重航空隊①9-3 三重高農

と記録がある。

後日、津工業校でラグビーを始めるキツカケなるボールが置土産になった。

戦後の中等ラグビー

戦前からラグビー部が存在していた津中の復帰は早く、21年春にはどうにかチームになつていた様だった。

当時のことを記した「松浦健」様が綴った記を紹介します。

「津中・中高の思い出」

昭和18年入学なので、時代の大きな転換期に遭遇した。終戦が中3、翌21年、久居兵舎跡での授業、クラブ活動、食べる物が極端に少なかった。

21年後半、旧中4年の頃、ラグビー部ができ、1級上の5年生に新開、新堂、世古、脇田、河合さ

んらが居られた。翌年旧5年生になる春休み、練習中に発病。5年生は休んでしまった。翌23年、新制高校となり、高3に編入、顧問に土保、前橋両先生になっていただいた。当時の三重農専（現・三重大学）のグラウンドへ指導を受けによく出掛けた。その頃、農専は大変強く、京大ラグビー部なんか合同練習に来ていた。

それまでユニフォームもなく、スパイクシューズは試合の時だけ、剣道着なんか着て練習した。ボールも革が粗悪で使っているうちに、角がとれ、冬瓜の枕のようになってしまった。授業の休憩時間に、中庭でよく校歌など声を張り上げて歌った。5月1日、その頃アメリカ風で、ユースデー（今のこどもの日の前身）に1日駅長さんになったり、いろいろ社会人のまねごとのようなことをした。

その頃、7人制ラグビーの試合があり、四日市高校グラウンドへ出掛けた。その頃は夏時間（サマータイム）、これもアメリカから丁度夏時間に切り替える第1日目だった。時計を朝1時間進めて実際の時間より早くする。（朝の5時がサマータイムは6時）日本に馴染まず、数年で止めてしまった。ヨーロッパなどでは、今もやっていると思う。皆、寝不足になった。その頃、県下でラグビー部は津工業（野口章先生が指導されていた）が一番強かった。北から神戸中、高田中、津中、津工、松工、宇治山田中、久居農林ぐらいたったと思う。

名古屋の瑞穂グラウンドでも試合があった。陸上のトラックのカーブのところに段差があった。ラグビー

グラウンドと併用していた。(ちゃんとした記録がないので試合結果など思い出せない)

23年夏休みに寄宿舎を借りて、合宿をした。マネージャー(神成、宮村と3人)で飯炊きをした。寮の賄いのおじさんに教えてもらった。大金で米飯や味噌汁を作った。当時はまだ統制が厳しく、電車で米を運ぶと警察に取り上げられる時代だった。あまり単調な食事なので、平野彪さんが特別メニューで魚のフライを作つて皆舌鼓をうった。

ユニフォームの予算を貰うため、事務長さんのお宅へ夜伺つたこともあった。合宿の費用を捻出するため、部員全員でアルバイトをした。東海土建に頼んで半田の山で堆肥作りをした。なんの指導もなく自分勝手に作つたので、東海土建で出来上がりを評価されず、交渉してやつとアルバイト料を値切られて受け取った。津の花火大会の夜だった。

秋になり、ラグビーシーズンを迎え、調子が上がり、年頭の全国大会予選の三岐大会で決勝まで進んだが一宮高に惜敗した。あの頃は今とちがつて3年の3学期でもまだクラブをやっていた。最終戦は建国の2月11日だったと思う。卒業式直前までクラブをやっていた。

翌24年度は学区制が強行され、松阪などから通学していた1、2年生は強制的に地元の高校へ転校させられた。クラブ活動にも大きな打撃であった。

平成9年10月記

- ①酒井
- ②福島
- ③松浦健
- ④阿部
- ⑤落合
- ⑥原田
- ⑦中川
- ⑧平野
- ⑨小井
- ⑩松浦昭
- ⑪小野
- ⑫木内
- ⑬多賀
- ⑭秦
- ⑮河合

(これを書いているとき、新聞で落合正武さんの詳報に接した。OBで顔を合わせたらという願いはかなわなくなった。謹んでご冥福を祈る次第である)

津工業のスタート

「三重海軍航空隊」で「闘球」の置土産である楯円球を、香良洲の松島君(松阪旅館の息子)が、「面白い」と持ち込んだことから始まる。松商の最後の1年生部員だった片山、笠井は何のためらいもなくパス、キックと行うが、チームとしてはどうかとその時、野口章先生が指導をかって出てくれた。だから、まるでフライングスタートの様に型作りが進行。

野口先生は津中学3代目のキャプテンで、慶応大学クラブチームJ・S・Kのメンバー。

野口先生の指導で

マーチャントの出来るチームになっていた。

結成したのは、何月何日？ 聞いてないが、21年の春頃にはチームとしての型が出来ていた。話は戻るが、20年7月27日に津の空襲で学校は津工、津中の両校とも焼失。終戦で、久居三十三連隊が空っぽになったので、久居兵舎へ移って、学校が再開しました。近鉄久居駅から一番遠い東側の兵舎へ入った津工業、その隣が津中と全く垣根のないのんびりしたものだったと聞いています。

何名が集まってパス廻しもグラウンドではなく、広場の一隅です。東側に位置したので、後日、一時、久居東高校となった訳です。

昭和21年全国大会三重予選

4校で始まりました。

昭和21年10月19日 津中 6―3 高田

津工 9―8 松工

昭和22年9月21日 津工 0―3 一宮中学 (国民体育大会東海決勝)

全国中等ラグビー大会東海予選 (松阪市営グラウンド)

昭和22年11月16日 松工 3―8 一宮中

津工 8―0 愛知一中

昭和22年11月23日 津工 0―8 一宮中 (瑞穂公園グラウンド)

高田中学は、津中、津工、に刺激されてスタート、三重農専（三重高等農林は戦中に農業専門学校に改）、2キロの近くにあり合同練習に出掛けるのが容易だった。そのあたりの事をいつでも聞ける「中村治CAP」は私の町内だったが先立ってしまい残念。

松工は21年9月に「白井先生」の呼び掛けで、チーム結成、松商OBの東条様（三雲町）の指導でスタート。少し遅れて安西昭様（松阪鉄工）の応援があり、約1ヶ月程でチームになった。三重農専に行くのは学校から200メートルで近鉄伊勢線「本居神社前」駅で終点「江戸橋」（今は廃線）で、週に1回合同練習で津中に追いつき津工追い越せの気であった。

新制高校と旧制度について

戦後、GHQの通達で急遽「学制改革」が昭和22（1947）年4月に行われた。教育現場では大変だった様で、各地所々の事情で昭和25年まで続きました。

昭和5年生まれ〜昭和10年生まれの方は、この制度で種々経験されたと思います。

●新制度

- 6 小学校6年（義務教育）
- 3 中学3年 義務教育になる
- 3 高等学校進学自由選択（学区制度規定）
- 4 大学4年制にする

旧制度について記録しておきます。

中等学校

中学校（5年）

津中・上中・富中・山中 等

甲種実業学校（5年）

松工・松商・山商・津工・四商 等

受験資格

尋常小学校六年卒業（国民学校）

尋常小学校高等科一年修了

尋常小学校高等科二年卒業

乙種実業学校（3年）

久居農林・多気実業 等

高等専門学校（3年）

高等学校

第一：第八・静岡・高知 等

高等商業学校

名古屋・和歌山 等

高等工業学校

浜松・桐生 等

高等農林学校

三重・盛岡 等

大学予科

東京商大学・北海道大学 等

大学専門部

尋常小学校高等科二年卒業

中学校四年修了

実業学校五年卒業

専検合格者（現在の大検に相当）

特例

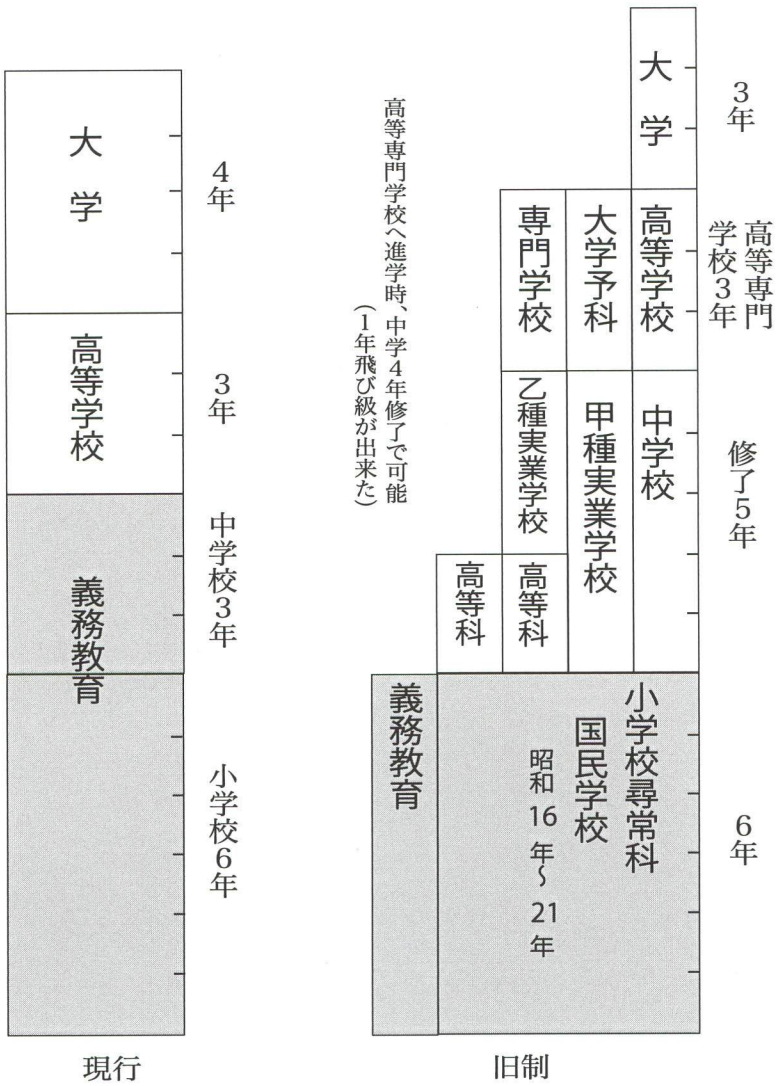
高等学校、大学予科は

実業学校四年修了で受験可能

戦時中に高等が無くなり、○○専門学校 三重高等農林学校↓三重農林専門学校
名古屋高等商業学校↓名古屋経済専門学校

医学部を除いて大学は3年でした。

新制度に移行のトラブルを避ける為に3年がかかりやって終わっても各所に異変が残りました。



津高等学校のラグビー部の創設

野口 章

津高ラグビーの創設のころを、私はまとめて書くつもりだった。たまたま昭和50年代に三重県ラグビー協会副会長をしておられた庄司稔氏が日本ラグビー協会の機関紙「ラグビー フットボール」の高校チーム紹介に寄稿された一文を読んだ。これは実に要領よく津高ラグビー部の創設とその後の展開について記述されているので、これを転載させていただくことにする。

庄司稔氏の記

津高ラグビー部は新設というより、今回2度目の復興成ったチームと称するのが妥当であろう。即ち、その前身たる津中学にラグビー部が創設されたのは、戦前に遡る昭和9・10年の2年間、当時、体育教官であった小野寺堅太郎氏の指導で体育の時間に、正課授業としてのラグビーを採用していたのが端緒となり、やがて井上国勝教諭のもとで正規の部として誕生したのであった。しかし、この時代の部は18年まで存続しながら、戦争の影響で廃部の憂き目を見るに至った。

戦後22年、いち早く部を再興したのが、この期は実力充実していて24年、25年、26年と3年連

続県下の覇権を掌握し、津高ラグビー部黄金時代を築いた。然るに、その後、学区制問題あるいは学校統廃合などの事情もあり、31年1月を最期に惜しくも津高ラグビー部の名前が消えてしまった。爾来、ブランクの続くこと17年、部の再起不可能と思われていたが、図らずも48年に至り、当時2年生であった田中、中崎、岡安ほかの生徒有志の間で、9月頃ラグビーをやるうと動議が起こり、楯円球を蹴り出したところ、次第に共鳴者も殖え、翌年2月同好会として発足することになった。

以後、野口部長の指導よろしきを得て、チームも順調に育ち、基盤の確立、戦力の充実も成り、50年4月正式に部として学校の許可を受け、今年5月協会に加盟したものである。因みに、野口部長は上記津中学が昭和13年1月、県下中学校大会で優勝した当時、同校にあってSHとして活躍せられた経歴の持ち主である。

その後7年の歳月を経て、昭和21年には氏は教諭として旧制津工業学校（現・津工業高校）の教壇に立たれる事となったが、戦後、青少年の健全な育成にはラグビーを通しての指導こそ最適のものなりとして、早速同校に部を創設して選手養成に力を尽くした。後年、津工業高校が全国大会或いは国体に出場するまでに成長した基礎は、氏によって築かれたものというべく、黎明期

の県高校ラグビー界の普及発展に寄与せられた功績は極めて大なるものがあつた。

さて、現代の津高チームの特色は、一見如何にも高校生らしい純真さ、澁刺さを窺わせるところにあり、その試合振りもよくセオリーに適った戦法を展開して、各校の間でも評判が良い。県下随一の進学校にして、尚、ラグビーに於いても上位進出を目指し、錬磨怠らぬ同校の将来に、関係者もファンも一様に大きな期待をかけている。

野口先生 遺稿 平成十三年 八十二歳

昭和20年9月、私は津工業に就職した。昼休みの間、グラウンドの片すみに、いつも8名くらいが円陣を作つて何かやつて遊んでいる。よく見ると、ラグビーボールらしいのが廻されている。大学なら捨ててしまうようなボールだが、私はなつかしくなり目頭が熱くなった。

「お前ら、ラグビーがしたいのか」

「したいのなら、俺が教えてやろうか」

というわけで、その日の放課後から練習が始まった。

初めはランニング、パス、そしてスクラム。

試合は、最初は松阪工業と対戦。1点差で敗れた。しかし、21年の暮れ、中学校ラグビー大会

が行われ、津工対松工は8―6の2点差で優勝した。ユニフォームがないのは残念ということで、黒の無地で「津工」と白く抜き、靴もどうにか整えて、ラグビー選手らしくなった。

昭和22年5月 津工対高中 14―3

昭和22年9月 東海大会予選 津工14―3 一宮中

昭和22年9月 東海大会予選 津工5―0 愛知一中

昭和23年1月 津工―神戸中 6―3

当時は県下で優勝しても、全国大会に出られず、愛知、三重、岐阜、福井、石川、富山の東海北陸6県で優勝して、初めて全国大会に出られるシステムだった。

初の全国大会は、西ノ宮倉運で行われ、残念ながら福岡代表に負けたものの、「津工強し」の噂は全国に広がった。

昭和24年秋の
資料不足
久居東高校の
メンバー

FW	杉谷
	松田
	小森
	米倉
	奥山
	葛西
	田村
	中西
HB	小川
	久世
TB	水谷
	増井
	大谷
	前野
FB	宮田

昭和25年、私は津高等学校に転任した。その頃、既に津中ラグビー部はよく活躍していた。当時、松浦省吾、近藤康雄、松浦健、阿倉正和、阿部清、小井万丸、小野倫郎などの諸氏は、素晴らしく敏捷でグラウンド狭しと走りまわった。三重県大会では、2回優勝し、まず負けることのない強力なチームとなった。

昭和48年再度津高等学校に転任。中崎雄也、田中俊行、宮村浩司、米川正彦、菅原隆、岡安克典、中川浩の諸氏が努力して、サッカー部から正式のラグビー部へと承認され活躍していた。当時、志摩高と木本高が県内では全盛期時代であった。たまたま志摩商の創立記念に祝儀とするように招待されたが、津高はバカに粘り強くて、志摩商を破ってしまった。

昭和56年のメンバー

FW	石田	林
	谷口	
	川原	
	小村	
	杉尾	
	大西 (義人)	
	大西 (聡志)	
	大西 (伸二)	
HB	大窪	
	田端	
TB	石倉	
	長井	
	岡部	
FB	猪股	
	岸	

津高はその後、指導者が居らず自然消滅したが、川原林、谷口、辻、大西（伸二）、大西（義人）、石倉、岡部、猪股の諸君は卒業後も、懐かしがって社会人としてラグビー部を創設して活躍している。

ラグビーがそのまま消えてしまうのが淋しいとあって、前田秀男氏（昭和28年卒）中心となって、平成7（1995）年、津高ラグビー部OB会を設立して今日に至っている。

先生の記憶の誤りは訂正せずに出しました。お許しを。

昭和24年の資料が無く恐縮ですが、高校学区制が始まり
津工業高校↓久居東高（新校舎完成で再び津工業高校）
松阪北高↓学区制ほぼ完了で27年から松阪工業高校

三重県立医学専門学校

昭和21年10月10日 0—44 三重農専

昭和22年5月25日 0—34 三重農専 姓名は判らないが、S・Oホネ・カワ・スジ（あ

だ名）の選手が印象に残る。

5月31日 0—56 三重農専

10月20日 名古屋経専

三重県立水産大学 資料不足

昭和24年 9月 三重農専

昭和24年 12月4日 0—40 愛知学芸大

大学リーグ

- ① 岐阜大
- ② 三重大
- ③ 愛知学大
- ④ 三重水産大
- ⑤ 南山大
- ⑥ 愛大

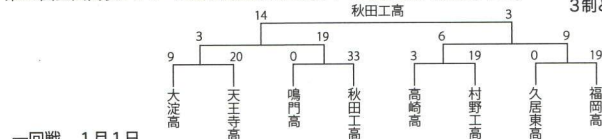
三重県立医科大学と併せ41年国立移管

（県立医専・水専・関係不明 資料不足）

第29回大会 昭和25年1月1日～5日 西宮球場

第29回全国高校ラグビー大会は元旦の寒気について西宮球場で開催された。

戦災で校舎を失くした津工は久居33連隊兵舎に移転その後6・3・3制と学区再編で久居東高でした



一回戦 1月1日

第1試合 天王寺高(阪和) 20⁽¹¹⁻³⁾₍₉₋₆₎ 9 大淀高(南九州)

天王寺高	藤井 岩井	千崎 片上	由崎 木下	伊藤 岡田	竹尾 青井	北垣 由本	坂田 松岡	古川
	FW				HB	TB		FB
大淀高	今井 川崎	安藤 目野	黒田 井上	由本	吉田 吉井	神宮寺 木村	古瀬 外由	田上

第2試合 秋田工高(北海道、東北) 33⁽¹²⁻⁰⁾₍₂₁₋₀₎ 9 鳴門高(中国、四国)

鳴門高	秋田第 菊地	阿部 撫佐	平遠 遠藤	泊	赤松 秋田見	谷 嵐	前林 鳥羽	岡島
	FW				HB	TB		FB
秋田工高	保坂 鈴木	太田 長坂	北島 原田	今野 加賀谷	船木 今村	粟田 鈴木	出雲 加賀谷	熊谷

第3試合 村野工高(北近畿) 19⁽¹¹⁻³⁾₍₈₋₀₎ 3 高崎高(関東)

村野工高	安藤 藤本	肥田 山根	山内 水田	浜田	福田 金沢	渋谷 藪田	新居 森本	日野
	FW				HB	TB		FB
高崎高	小坂 土橋	塚越 保科	遠大 浅野	中倉	戸塚 善如寺	太田 淡路	吉田 新保	木

第4試合 福岡高(北九州) 19⁽¹⁶⁻⁰⁾₍₃₋₀₎ 0 久居東高(北陸東海)

久居東高	杉谷 葛西	小森 田中	米倉 奥田	中西	小川 久世	前野 大谷	増井 水谷	宮田
	FW				HB	TB		FB
福岡高	安増 石田	平田 黒木	藤松 川内	土屋	今泉 山田	森田 岡留	波 喜多崎	緒方

準優勝戦 1月3日

大会2日の準優勝2試合は3日午後2時より西宮球場で挙行され秋田工高、福岡高がそれぞれ晴の優勝戦へと駒を進めた。

第1試合 秋田工高(北海道、東北) 19⁽⁶⁻⁰⁾₍₁₃₋₃₎ 3 天王寺高(阪和)

秋田工高	保坂 鈴木	大田 長坂	北島 原田	今野 加賀谷	船木 今村	栗田 今本	出雲 加賀谷	熊谷
	FW				HB	TB		FB
天王寺高	藤井 岩井	千崎 木下	片上 伊藤	岡田	竹尾 青井	北垣 由本	坂田 松岡	由崎第

福岡高	安増 石田	平田 黒木	藤松 川内	土屋	緒方 山田	森田 岡留	波 喜多崎	今泉
	FW				HB	TB		FB
村野工高	安藤 藤本	水田 由根	本田 栗田	浜田	福田 金沢	渋谷 藪田	新居 森本	日野

優勝戦 1月5日

大会最終日を迎え秋田工(北海道、東北代表)対福岡高(北九州代表)の優勝戦は1月1日午後1時から開始された。この日高松宮殿下の来臨のもとに優勝戦にふさわしい熱戦を展開したが、前年に引き続き秋田工高の強豪福岡を降して優勝した。

秋田工高(北海道、東北) 14⁽³⁻⁰⁾₍₁₁₋₃₎ 6 福岡高(北九州)(主審 杉本)

戦後復興時の社会人チーム

大阪ラグビー協会は三重農専OBと松商OBで結成。オール三重でした。

昭和21年10月13日 大阪商業OB 14 | 0 名古屋鉄道局（現JR東海名古屋）

昭和21年11月3日 全三重 13 | 14 全名古屋 瑞穂G

※東海地区初有料試合 2円

昭和21年12月1日 全三重 16 | 10 全名古屋 瑞穂G

全大阪 33 | 0 全東海 //

※有料試合5円

昭和22年4月 東部、西部協会を改めて関東、関西、九州協会各府県に支部を置くこととなる。三重県協会金児隆気付とする。

三重農専OB、松商OBの方々種々ご苦勞願ったのですが、大事な財政面では(株)松阪鉄工所安西兄弟と金児兄弟には、発足から昭和26年まで非常にお世話になりました。

昭和22年5月4日 松商OB 0 | 9 三重農専

昭和22年8月31日 松商OB 11―36 三重農専

昭和22年11月3日 松阪クラブ 12―14 三重農専

(松商OBに農専OB参加松阪クラブ)

昭和23年2月8日 全三重 10―0 全名古屋

昭和23年3月7日 全三重 14―0 全岐阜

昭和23年11月28日 全三重 13―29 全愛知

昭和23年12月 愛知第一師範招待七人制大会

松商OB 15―5 第一師範

昭和24年3月20日 全三重―全岐阜 松阪市営G

昭和24年3月27日 全三重 12―13 全愛知(名経専G)

昭和24年5月8日 東海七人制大会(大同製鋼G)

松阪クラブ 13―8 岐阜農専B

松阪クラブ 14―0 トヨタ自動車B

松阪クラブ 11―8 芳野クラブ

松阪クラブ 18 | 4 トヨタ自動車A 決勝

昭和24年9月26日 松商OB | 名鉄局 (松阪市営G)

昭和24年10月2日 全三重 20 | 31 全愛知 (国体東海決勝)

昭和24年11月27日 松阪クラブ 47 | 3 名鉄局

昭和25年4月29日 東海実業団大学高等専七人制大会

松阪クラブ 22 | 0 三重大B

松阪クラブ 8 | 14 トヨタ自動車A

昭和25年10月1日 全三重 | 全愛知 (国体東海決勝)

非公式であるが、昭和26年頃、横浜ゴム「伊勢工場」では、明治大学(多分M・R・C)出身 松井、慶応大学(B・Y・BかJ・S・K・S)の権田両氏がリーダーで結成。リーダーの転勤で二年ぐらいで消えた。やはり同じ頃、中部電力四日市火力でも始まっている。当時のキャプテンは、松阪商OB橋本幸一郎(昭和17年度主将後、参議員二期勤)。昭和30年頃？
愛知県協会に登録。

社会人チームとして正式登録されたのは昭和36年（?）、三菱油化（現・三菱化学四日市）から始まって、富士電気、本田技研と続き日本合成ゴムだった。

久居自衛隊チームについて

一色啓次様に伺いました。

昭和31年12月に第一回陸上自衛隊の大会が開催。これを機に、14連隊第3大隊（久居駐屯地）のセレクションでチーム発足。翌32年には全自衛隊大会になり、北海道、東北東部、中部、九州の各方面隊、海上、航空、直轄で8チームのトーナメントになりました。33年3月「宗重彦」（靴山中、早大OB）様が司令として着任。訓練の一部に「ラグビー」を取り入れ、その強化練習の産物として練兵場の中にグラウンドが出現。関係者の並々ならぬ努力で出来上がったとの事でした。

当時、国の施設は一般には使用出来ないのが当たり前だったが、宗様の計らいで自由にラグビー場として使用出来たのは、福音だったと思います。全国的に見ても珍しい事です。但し、便所、水道がグラウンドから300メートル隔たった所があり、苦情を聞きましたが、一般人では練兵場の意識は皆無に等しい。

同じ様に、陸上自衛隊航空学校（明野駐屯地）でもチームが結成されました。

塩崎 光藏 様

先生は、戦後、三重農専で三年（昭和21〜24年）ほど教鞭を取られました。木ノ本中学の第1回生、東京高等師範（現・筑波大）の後、京城師範の監督コーチ、東京教育大の監督24年。不惑チーム創立メンバー。

三翠ラグビー50年のあゆみに洩れていた様に思いましたので、紹介してきました。

事故

昭和31年11月8日 三重大対岐阜大戦で、三重大学フッカー田中治君の事故死はラグビー関係者が風化させてはならんことです。

ブラックボックス

厳密文書の開示について、某国では30年だとかルールがある様ですが…。

昭和37年夏の某日午前

金児隆先輩から「和田金へ出てこい」と。ネコ様が昼食に呼んでくれる珍しい事もあ
ると思い、出掛けて行った。関西ラグビー協会会計の中島直己様同行前田昌秀（三重高
農16年卒）様、三重県側金児隆（三重高農17年卒）、滝本弘。話の内容は、昭和26年に金
児氏から吉田様に県協会に移行後、関西協会へ十年ほど協会費未納の件及び解決策につ
いて。金児氏から「お前面倒見てくれ」。

その一語で、小生引き受けざるを得ない事になり、総会の細目の連絡もなしに行動開始。
関西協会未納金はポケットマネーで解消、レフリーへの謝礼金はオールボランティアで
お願いした。特に「近藤康雄」様には大変ご苦労いただきました。

財政再建途中で、ちよつとしたトラブルがあり、昭和38年3月荘司稔様をお願いしま
した。僅か8カ月協会を預かり、関西協会十年余りの問題は一件落着。

財政面で脆弱な地方協会を維持するのは大変な事です。ラグビーファンを早く協会の
賛助会員にする方が近道か？

東邦商業優勝す

ラグビー東海豫選

【前報】東邦キックオフからそのまゝ松阪陣になだれこみ左隅で瀧戦をくりかへしてゐる中十分東邦二十五ヤード線左寄りて罰蹴を得、間宮のアレスキックコムバートして三點先取、松阪版大起して十八分須藤中央線から大きくスワীগしてキックで大きくバツクを抜きドリブルに出でそのまゝ、長編ゴール直下にトライ、名物のキック成る(五點)二十分東邦二十ヤ左で罰蹴を得たが物にならずそのまゝ、ゴール前で混戦し二十一分ゴール右キヤードにF Wトライをあげる

(二點)十九分松阪自陣ゴール前からキックで大きく返し奥野よく球を拾ひ長編八十ヤードトライ成り(三點)八—六で松阪リード【後半】最初は兩軍混戦を重ねてゐたが東邦F Wの強力キックで

松阪商業

田上田野賢戸井兄澤田野澤陸風口寺田中大多中森金西慶泉金須高谷

FW HB TB FB

戸田田山崎野橋尾宮川水際浩神吉安下高山水大流間小 濱加尹

東邦商業

なブツンニて攻めこみ流尾密集を構つてゴール右十ヤードにトライ(三點)九—八でリード、廿二分東邦T Bパスで進み加藤猛烈にゴール右隅にとびこみトライ成り12—8と勝負明らかと

中等校に普及

黄金期近し

廿四日に縣主催大會

三重縣ラグビー

【本社津電話】三重縣下のラグビー界に黄金時代が来るのも遠い將來ではない。三重高農ラグビー部の強豪振りは竜

に東海地方のみならず全國的にも喧傳されてをり、この花園グラウンドで開かれた全國高専ラグビー大会に出場して準決勝戦で全國高専ラグビー界の覇者明大豫科を向ふに廻して玉砕した武者振りはその聲名に背かぬ天晴れなものであつたが中等學校では僅かに松阪商業と津中にラグビー部があるばかりで、東邦商業と定期戦を演じて

みる程度の淋しさであつたところ

今度山田中學、山田商業の神都の二校にラグビー部が出来、廿四日山田中學グラウンドで松商、津中山中、山商の四校参加の縣體育協會主催第一回中等學校ラグビー大會が催されることになつたのは斯界の向上進歩に寄與するところ多き試みで、中等學校競技界にラグビーもまた一重聖部門をなし、統制ある團結心の陶冶と身體の鍛鍊に資するところ甚大なるものがあるであらう

昭和7年10月17日名古屋新聞

昭和12年1月15日新名古屋新聞

中等校に普及

黄金期近し

廿四日に縣主催大會

三重ラグビー

【本社電話】三重縣のラグビー界に、黃旗時代が来るのも、遠い將來ではない。三重縣ラグビー部の活動は、東海地方のみならず、全国的にも喧傳されてをり、このほど花開きラウンドで開かれた全關東ラグビー大會に出場して、準決勝戦で全國優勝ラグビー界の期星明大を相手に、苦しむ玉座した武蔵野のその聲を、響かぬ天晴れなものであつたが、中華學校では、僅かに松阪商業と津中にラグビー部があるばかりで、東邦商業と定期戦を演じて

ふる程度の練習をもちつたと云ふ。

今度山田製、山田商業の神部の二校にラグビー部が出来、廿四日山田製ラグビー部が出来、廿四日山中、山商の四校参加の縣體協ラグビー第一回中等學校ラグビー大會が、開かれることになつたのは、所界の向上に、進展するところ多き試みで、中等學校ラグビーに、統一制ある精神の陶冶と身體の鍛練に資することゝなるものがあるであらう。

昭和12年1月15日
新愛知新聞

東邦商業優勝す

畿東海中等ラグビー

本社特選、名古屋商主権第二回東海地方中等學校ラグビー大會は、十一日午前十一時から名古屋校庭で舉行、東海のラグビーチーム四つの内松阪商業を除く東邦商業、津中、深谷二中の三チーム参加、結局東邦商業が三度優勝を遂げた(優勝は東邦一)。

【準決勝】

津中製材(86)00 深谷二中

木田川原寺(86)00 滝池瀧力井山

勝太郎結野(86)00 大正名石

(準決勝) 津中製材 HB TB FB

海平製野(86)00 水北山口井谷井水村

鳴木佐次加 松中田野(86)00 津中

(優勝) 東邦商(86)10 津中製材

津中製材(86)10 津中製材

津中製材(86)10 津中製材

津中製材(86)10 津中製材

津中製材(86)10 津中製材

津中製材(86)10 津中製材

津中製材(86)10 津中製材

津中製材(86)10 津中製材

津中製材(86)10 津中製材

津中製材(86)10 津中製材

津中製材(86)10 津中製材

津中製材(86)10 津中製材

津中製材(86)10 津中製材

津中製材(86)10 津中製材

津中製材(86)10 津中製材

津中製材(86)10 津中製材

津中製材(86)10 津中製材

津中製材(86)10 津中製材

津中製材(86)10 津中製材

津中製材(86)10 津中製材

津中製材(86)10 津中製材

津中製材(86)10 津中製材

津中製材(86)10 津中製材

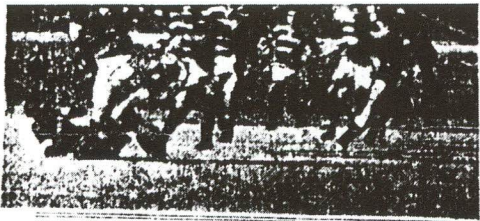
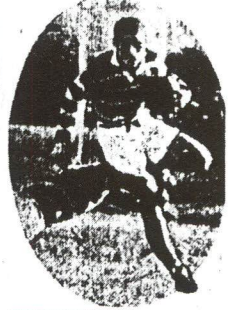
津中製材(86)10 津中製材

津中製材(86)10 津中製材



昭和13年12月12日
新愛知新聞

長田 龍男
牛込 龍男
...



出進に陣商邦東でルブリド阪松 戦商阪松對商邦東

二三高農岐高農快勝

中等部に東邦商敗る

全国大會東海遠征
全日本選手権大会東海遠征隊は、11月20日、大阪府立商業学校で、東邦商戦隊と対戦した。結果は、東邦商が勝利した。

一高等部
試合時間 30分
開始時間 午後1時
観衆 約100名
結果 東邦商 27点、二三高農 3点

審判 平岩治郎

中等部
試合時間 30分
開始時間 午後2時
観衆 約100名
結果 東邦商 10点、二三高農 0点

審判 平岩治郎

東海遠征球快勝
東海遠征隊は、11月20日、大阪府立商業学校で、東邦商戦隊と対戦した。結果は、東邦商が勝利した。

同大ヨツト遠征
同大ヨツト遠征隊は、11月20日、大阪府立商業学校で、東邦商戦隊と対戦した。結果は、東邦商が勝利した。

大光明
大光明は、11月20日、大阪府立商業学校で、東邦商戦隊と対戦した。結果は、東邦商が勝利した。

明大
明大は、11月20日、大阪府立商業学校で、東邦商戦隊と対戦した。結果は、東邦商が勝利した。

東邦商
東邦商は、11月20日、大阪府立商業学校で、東邦商戦隊と対戦した。結果は、東邦商が勝利した。

東邦商
東邦商は、11月20日、大阪府立商業学校で、東邦商戦隊と対戦した。結果は、東邦商が勝利した。

東邦商
東邦商は、11月20日、大阪府立商業学校で、東邦商戦隊と対戦した。結果は、東邦商が勝利した。

東邦商
東邦商は、11月20日、大阪府立商業学校で、東邦商戦隊と対戦した。結果は、東邦商が勝利した。

松阪全國大會へ

中等ラグビー 東海決勝

全国中等ラグビー 關東東海京都地
万決勝は一日午後二時半から名古屋
入事名所球場で東海代表松阪商
業と京都代表京都一商との間に行
はれ、試合は形勢主義、松阪先攻
で開始されたが、松阪の闘争は巧
く京都に互角の對戦を挑み、5-1
で進み凱歌を奏し東海代表とし
て初優勝を挙げ、全国大會の三冠
優勝と共に全国大會への出場する
ことになった。

松阪商業 60-30 京都一商

田木西本 口瀧 菅井 利木 田村 林 田部
西銘 廣 公通 市朝 母毛 青平 田小 比國
松阪 W HB TB FB
京都 F

田村 尾 田利山 橋本 岡木 敷井 石
高小 荒 栗毛 清 大神 島 荒佐 徳 出
◇：前半風上の京都FWはセマン
ながら松阪によく對抗、殆んど
全部の球を鮮やかな速いスパス
ムツキで供給してゐたが、TB
のパスは全く感く出足も速く
強引な松阪のマンツーマンで
たい、松阪はFWに押しが戻り
僅かの球をTBの活躍で取らな

昭和15年12月2日 愛知新聞

松阪商初の東海代表

天晴れ技術的弱点を圖志で

第1回全
一ヒクラ

代表決定戦

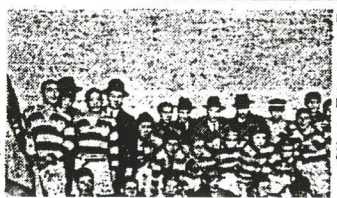
全日本中等ラグビー
東海代表松阪商業
京都代表京都一商
一昨日午後三時半
から名古屋入事名所
球場で行われ、松阪
先攻、凱歌を奏す

松阪 60-30 京都

田木 西本 口瀧 菅井 利木 田村 林 田部
西銘 廣 公通 市朝 母毛 青平 田小 比國
松阪 W HB TB FB
京都 F

田村 尾 田利山 橋本 岡木 敷井 石
高小 荒 栗毛 清 大神 島 荒佐 徳 出

松阪は、この試合で、
初めて東海代表に選
ばれた。これは、松
阪商業の、この試合
で、初めてである。



名古屋優勝

名古屋商業は、この試合で、
初めて優勝を挙げた。これは、
名古屋商業の、この試合
で、初めてである。

終わりに

昭和61年、松阪ラグビースクールをスタートして3年目。天理において日本協会主催の初めて全国ラグビースクール指導者連絡会議が開催された。その席で「岡仁詩」先生がイングランドへ見学に行った時、イングランドのラグビー指導書のカバーの裏表紙に手書きである言葉が書き込んであった。伝言です。

「ラグビーはフェアでなければならん。但し、テストマッチは如何なる事があつても勝たねばならん」

19年ワールドカップの前に理解頂けますか。スクールを始めた時、「東出光義」の約束をやつと果たしました。「栄光の松阪商業学校ラグビー部」。昭和初期、揺籃時代の記録を拾い、ラグビーの先輩へ一欠けらの鎮魂になれば多幸です。

愛知新聞、名古屋愛知ラグビー年史、特に毛利様の遺稿スクラップブック史料を借用ありがとう。誤りも多々あるかと思いますが、ラグビー狂のざれごとにして下さい。

「夏草や つわものどもが 夢のあと」

平成24年9月

大北惇彦

ふるさとラグビー雑史

2012年9月 初版発行

編者／大北 惇彦

〒515-0083

三重県松阪市中町1831

プロムナードマンション501号

発行所／株式会社 夕刊三重新聞社

〒515-0821

三重県松阪市外五曲町15

TEL 0598 (21) 6113 (代表)



装丁

上の坊輝也